

# 宣教支援センター

全国支援・地域協働プロジェクト  
バプテスト北九州地方連合  
宣教支援センター  
ニュースレター◆ 第1号

## 運動としての宣教支援センター

連合会長 谷本 仰



昨年11月、天城山荘で開催された日本バプテスト連盟の第60回総会で「北九州地方連合・宣教支援センター」が全国支援・地域協働プロジェクトとして承認された直後の、提案14教会が集まったの祈祷会のことが忘れられません。連合が単なる集まりではなく、改めて協力伝道のための運動体として動き始めたことを感じる瞬間でした。そしてそこには、提案教会以外の代議員も同席してくださいました。

14教会という枠組みは、連盟総会に向けての提案のために形作られたものでした。今後はどんどんそれが15、16、と広がっていき、やがて連合内28教会に至ることを願っています。すでに宣教支援センターは14教会ではなく連合そのものの運動、そして仕事になってはいますが、その主体的な関わりが諸教会に広がり、励まされるよう祈っています。

さて、6月の連盟理事会において、2015年度の連盟支援512万円の支出が承認されました。同時に、連盟教役者退職金制度も規約改定され、宣教支援センター主事を擁する北九州地方連合もその制度を利用できる形が整いました。齊藤弘司主事の活動も開始され、研修や諸教会訪問、活動計画立案に取り組んでいただいています。連盟理事会においては、宣教支援センターの取り組みに関して、連盟諸教会・伝道所が情報を共有し、祈りを合わせることができるようにすることも、課題としてあげられました。このニュースの発行もその働きにつながっています。私たちの北九州地方連合の働きが、全国諸教会・伝道所によって文字通り物心両面での支えを得て展開していくことを願っています。

前期後期それぞれ4年ずつ、計8年にわたるこのプロジェクトを通じて、北九州地方連合諸教会が新しくなっていくこと。目に見えて、具体的に、教会が元気になり、伝道の働きが活性化すること。そのことを実現するためには、初年度の2015年度、そして2年目の2016年度の2年間の連合諸教会の積極的参加が必要です。共に立ち上がっていきましょう。よろしく願いいたします！！

## 連載

### 宣教支援センターとは何か(2)

前号で、宣教支援センターの役割とは、教会と教会との出会い、関わり、助け合いのお手伝いであると申し述べました。今回は「出会い関わり助け合い」について、もう少し具体的に深めてまいります。

#### ■教会と教会が出会う

教会と教会の交流にはどんなものがあるでしょうか。たとえば牧師の交換講壇や合同野外礼拝、あるいはバーベキューなどのレクリエーション。北九州地方連合では、教会と教会がペアを組んでこれら様々な形を試み、豊かなお交わりを継続されていると伺っております。

主にあるお交わりは楽しく励まされるものです。出会いを重ねて互いを知るなかで築かれた親身な祈りの関係は、本当に尊いものだと思います。

#### ■二歩目の出会い

前号でも申しましたように、私たちの地域では急激に人口が減っています。教会がメンバーの減少に直面していることはある意味自然なことかもしれません。皆様の教会でも、伝道に励みつつも何らかの壁、悩みやジレンマをひしひしと感じていらっしゃることでしょう。

まさに逆風にある今こそ、キリスト者の使命「福音宣教」のために、もう一步踏み出してみませんか？

福音宣教に的を絞った出会い。教会の「なんとかしたい！」といううめき・求めを表に出して形にするための出会いを、ぜひ宣教支援センターにお手伝いさせてください。

#### ■たとえば「新来者」について

皆様の教会では、初めて主日礼拝に来てくださった方をどのようにお迎えされていますか？これは教会の営みのなかで、古くて新しい課題です。主の導きによって教会に足を踏み入れた大切なお一人。ぜひとも再び足を運んでいただくために、皆様の教会は祈りをもって様々な配慮・連携・しくみ作りをされていることでしょう。他教会の取り組みを知ること、自らのヒントが得られるかもしれません。これはという教会に狙いを定めて、新来者をテーマにした協働をしてみませんか？

#### ■主の約束

「信者たちは皆一つになって、すべてのものを共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」

(使徒言行録 2: 44~47)

主の約束の真実であることを信じて、協働しましょう。教会の「なんとかしたい」「変わりたい」を形にしていきましょう。宣教支援センターが伴走いたします。



# 教会訪問はじめました

## ① 防府教会・・6月3日(水)



センターの教会訪問。最初は防府教会です。3月1日にシオン山教会で行われた宣教会議において、「防府教会を一番に訪問してください」とお声がけくださった姉妹がおられたのをよく覚えていたからです。

会堂の前にはあじさいが群生していて、ちょうど色づき始めていました。

当日お話を伺っていると、午後3時過ぎに小学生の男の子二人組が教会にやってきました。彼らは教会の近所に住んでいる兄弟。いつか礼拝につながってほしいとの祈り心を込めて、防府教会では学習支援の取り組みをしているのだそうです。この日は奉仕者の姉妹とホットケーキ作りにチャレンジ。私たちもご相伴にあずかることができました。

お話を伺っていて強く感じたことは、教会のミッションとして、外に出かけて行って隣人に仕えることを大事にしておられるということでした。

國分美知子牧師の持ち前の明るさにメンバーの方々も励まされて、防府教会では人数をはるかに超えた働きが起こされていることを強く感じました。

## ② 直方教会・・6月10日(水)



教会は直方駅に向かう交通量の多い国道に面しています。会堂の屋根についた白い十字架が、遠くからでもよく見えて、目印となっています。

今年度の直方教会のテーマは「祈る教会」。三年前の会堂建築の時に、メンバーの皆さんで話し合っただけ決めた5項目の「教会の幻」から、毎年一つのテーマを絞り、年間聖句と主題讃美歌を定めているそうです。

直方教会は2年前に芦屋教会が無牧師となったときから、芦屋教会との合同祈禱会を続けています。今年3月までは毎月、4月からは奇数月の最終水曜日。直方と芦屋の教会を交代で会場としています。毎回10名くらいの方が集い、みことばの学びと祈りの時間を守っているそうです。

地域に開かれた教会を目指して、定期的にバザーを開催し固定客を得ているとのこと。そのほかにクリスマスチャリティコンサートなどの試みも行っています。

訪問時間が昼食時と重なり、原口牧師を中心にメンバーの皆様と和やかであたたかいひとときを過ごさせていただきました。直方教会において、原口牧師が立てられ、心から敬愛されていることを肌で感じた教会訪問でした。

## ■ 宣教支援センター常任委員会



常任委員会のメンバーは、谷本連合会長・山崎副会長・山田運営委員長・サポート教会の奥田牧師・石橋牧師・齊藤センター主事・連合事務局の牧野姉です。毎月開催されて、主事の報告を受け課題を見つけ今後の活動計画をじっくり協議しています。写真は6月7日（日）19時から東八幡教会で行われたセンター常任委員会の様子。連盟から野口哲哉宣教部長も来てくださっています。

### ■ 主事の予定

- 6 / 22 (月) 連盟事務所にて研修  
(24日まで)
- 25 (木) 連合伝道委員会出席
- 28 (日) 豊前教会感謝礼拝出席
- 7 / 1 (水) 豊前教会訪問  
別府国際教会訪問(予定)
- 5 (日) 連合臨時総会・宣教会議  
第三回常任委員会
- 6 (月) 企救教会訪問
- 8 (水) 北九州教会訪問(予定)
- 13 (月) 苺田教会訪問
- 15 (水) シオン山教会訪問  
若松教会訪問(予定)



### ■ 編集後記

6月8日（月）に連合女性会総会に陪席させていただきました。私にとって初めての経験でした。20教会からの参加があったことに正直驚きました。

教会の一員であると同時に、連合の仲間でもあるんだ！という皆様の意識の高さに感銘を受けました。

同時開催のバザーは美味しい物でいっぱいでした。(齊藤弘司)

発行日	2015年6月22日
発行責任者	山田 雄次
発行所	
〒805-0015	
北九州市八幡東区荒生田 2-1-40	
東八幡キリスト教会内	
連合宣教支援センター事務局	
TEL&FAX (093)651-6669	